

## 平成21年度 保健室経営の重点活動表

中学校(生徒数 382人)

**【児童・生徒の健康課題】**  
 ・人間関係構築力が弱い  
 (ことば・表現力・想像力が不十分)

**【教育目標】** 目標をもち 自ら考え ねばり強く実践する生徒

**【重点目標】**  
 望ましい人間関係を築くことができる生徒

**【養護教諭の児童・生徒への願い】**  
 ・知識を行動にうつせる人になってほしい

**【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】**

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・90%以上の生徒が自分のクラスはいいところがいちばんと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒へのアンケートから                      A : 90%以上                      B : 80~89%                      C : 79%以下</li> </ul>		
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かい人間関係を確立し、相手のことを思いやれる性教育を行う。</li> <li>・相談を受けた場合、丁寧に聞き取り、問題を明確にした上で、解決方法を一緒に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育実施後、学習したことと自分とを照らし合わせた振り返りができる生徒の割合 (感想記述より)                      A : 70%以上 B : 60~69% C : 60%未満</li> <li>・生徒のその後の行動から考えたことを実行にうつした割合                      A : 80%以上 B : 70~79% C : 70%未満</li> </ul>		
運営活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の職員と連携し、保健室からの情報を生徒理解に役立てる。</li> <li>・本校で活用できる地域相談支援関係機関一覧表を作成する。</li> <li>・外部講師を招いて、臨床動作法を教育相談に活用する方法について職員で研修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へのアンケートより 役立ったと回答した職員                      A : 80%以上 B : 70%以上 C : 70%未満</li> <li>・研修後の職員アンケートで教育相談に活用できそうだと回答する職員の割合                      A : 80%以上 B : 70%以上 C : 70%未満</li> </ul>		

**【考察】**

## 平成21年度 保健室経営の重点活動表

中学校 (児童・生徒数 123人)

### 【児童・生徒の健康課題】

・自分自身の体調と生活リズムが密接に関連していることを実感しながらも、改善していこうという意欲は希薄だ。

### 【教育目標】

知・徳・体の調和のとれた人間関係豊かな生徒  
自己指導力を身につけ自己実現をめざす生徒

### 【養護教諭の児童・生徒への願い】

自分自身の気づきを通して、主体的に自分の生活や体調をコントロールしていく力を育てたい。

### 【重点目標】

自分自身の健康を多角的にとらえ、健康三原則に基づく生活習慣を進んで実践していく力を育てる。

### 【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	就寝時刻を自分で決め、その時刻に就寝できるようメディアの視聴時間を制限するなど生活時間を自己コントロールできるようになる。	* チェックカードでメディア視聴平日1日2時間 A:実施率80%以上 B:実施率75%以上 C:実施率70%以上		
教育活動	年4回の「朝！元気スタート運動」強調週間を軸にして、生徒自身に生活の見直しをさせ、保健指導・保健学習で生活改善の目標や具体的な方策を持たせる。	* 前回チェックの反省を踏まえ、改善の目標が持てた生徒が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上		
	強調週間の事前指導を学級担任と連携をとり、学級活動で指導する。	指導後、効果的な事前指導が行えたと答えた学級担任が A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満		
運営活動	チェックカードの結果を集計し、指導資料として保健だよりに掲載し、発行する。	学校評価(職員)アンケート「体力向上」2の項目で、効果的な資料となったと答えた A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満		
	強調週間に合わせ、生徒保健委員会活動として他の委員会とも協力しながら、全校生徒への働きかけができるよう支援する。	A:他の委員会と協力体制を作りながら、朝元気運動が実施でき、効果的だった。 B:保健委員会単独の朝元気運動が実施でき、効果的だった。 C:保健委員会単独の朝元気運動を行ったが、十分な効果が得られなかった。		
	小中合同学校保健委員会や地域PTAで「朝！元気スタート運動」強調週間の結果を分析し、生活習慣改善についての話題を提供していく。	話題提供に関する肯定的評価が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上		
【考察】				

## 平成21年度 保健室経営の重点活動表

中学校 (児童・生徒数 604人)

### 【児童・生徒の健康課題】

- ・授業不応や背景に心の問題を抱えて来室する生徒がいる。
- ・良好な人間関係を築くことが苦手な生徒がいる。

### 【教育目標】心豊かにたくましく生きる生徒

### 【重点目標】

心の健康問題改善に向けて、保健室での  
かかわりを通して支援する。

### 【養護教諭の児童・生徒への願い】

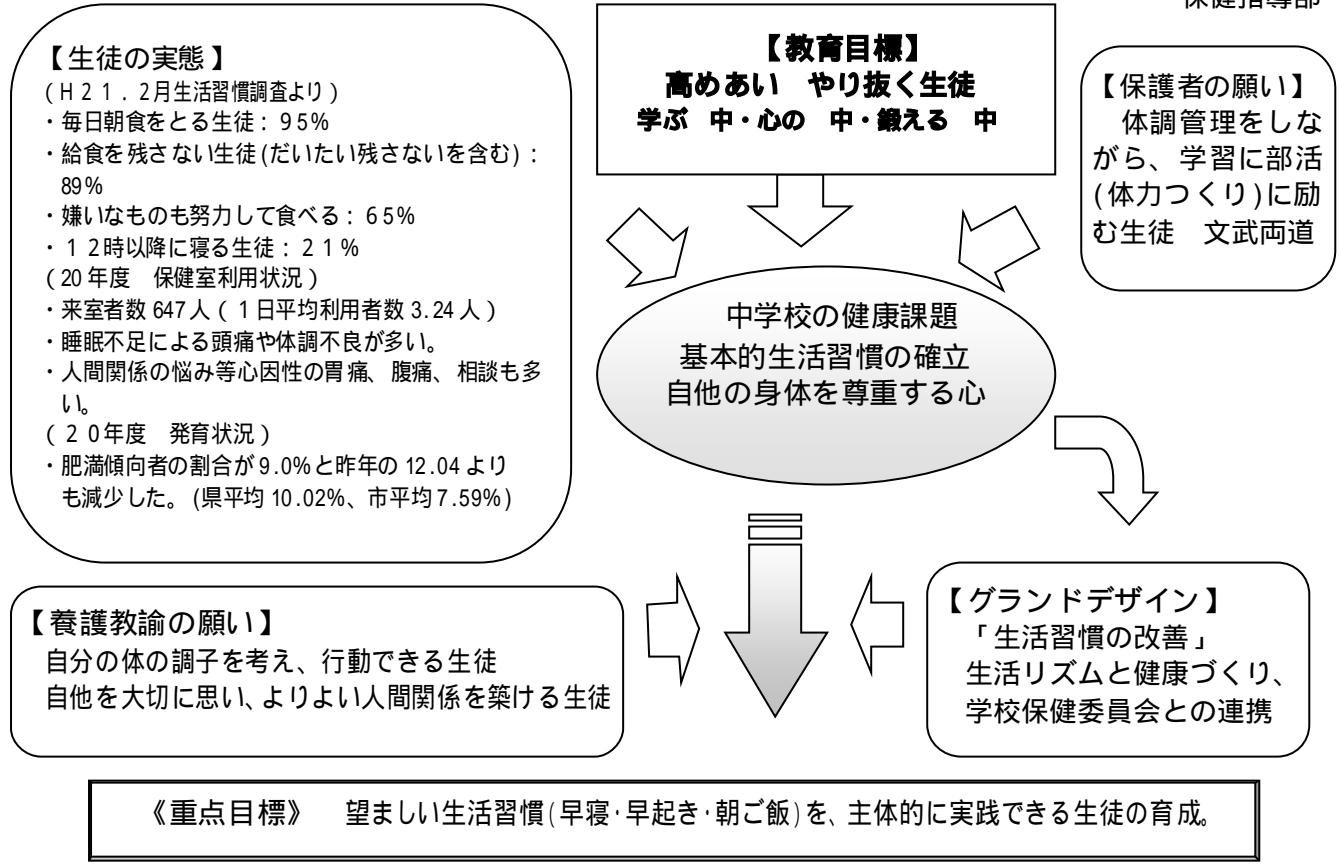
- ・自己理解を深め、より良い方向へ自分を変えていこうとする生徒。
- ・良好な人間関係を築こうとする生徒。

### 【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	保健室でのかかわりを通して、不適応者や心の問題を抱えた生徒が、改善の方向に向かう。	かかわった生徒にアンケートを実施する。 A：問題が改善している生徒が70%以上 B：問題が改善している生徒が50%以上 C：問題が改善している生徒が50%未満		
教育活動	心の問題が背景にある保健室来室者および相談室登校生徒に対して、スキルトレーニングなどを取り入れた対応をする。	必要と思われる生徒に対して A：80%以上に実施した。 B：60%以上に実践した。 C：60%に満たない。		
運営活動	保健室で得た生徒の情報を学級担任等関係職員に提供する。  スクールカウンセラー、教育相談部、学年担当者と連携して、効果的なスキルトレーニングの方法や活用しやすいワークシート等を準備する。	提供した情報が役立ったと答えた職員が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満  ワークシート等を活用した職員が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満		
【考察】				

# 平成21年度 保健室経営計画(案)

保健指導部



## 【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価計画】

	評価項目(具体的な方策)	評価基準	評価方法
成果	全校生徒が朝食を食べて登校する。	朝食摂取率が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 90%未満	生徒「生活習慣に関するアンケート」で評価(7月と10月、2月)
	睡眠時間が7時間以上とる生徒を70%以上にする。(テスト時以外)	7時間以上の睡眠をとった生徒が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 60%未満	生徒「生活習慣に関するアンケート」で評価(7月と10月、2月)
教育活動	規則正しい生活習慣が身体に与える影響(健全な心身の成長学力の向上等)についての知識の定着を、一斉指導や保健学習等の機会を捉え推進し、生徒の意識改善に努める。	指導後、肯定的評価が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以下	指導後の生徒の自己評価で、4段階評価の3と4を肯定的評価とする。
運営活動	(1)生徒執行部「保健所」が主体となった呼びかけや調査等の発表に機会を設ける。	実施後の保健所員の肯定的評価が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 80%以下	執行部内アンケートで、4段階評価の3と4を肯定的評価とする
	(2)家庭・地域と、規則正しい生活習慣の習得について、共通の認識を持つため、便りの配布で、資料提供他、学校保健員会で啓発を図る。	学校保健委員会後、肯定的評価が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以下	学校保健委員会実施後の参加者アンケートで、4段階評価の3と4を肯定的評価とする

# 平成21年度 保健室経営の重点活動表

中学校 (児童・生徒数 70人)

## 【児童・生徒の健康課題】

・永久歯う蝕患者率、1人平均う蝕数が市平均よりも上回っている。  
 ・肥満傾向者の割合は男子5.7%よりも、女子11.4%に多い。程度別では男子は軽度、女子は中等度以上である。  
 ・テレビ・ゲーム・PC等の時間が長く、就寝時刻や起床時刻が遅くなり、眠い、だるい等の症状を訴えることが多い。

## 【教育目標】夢・未来をかける 中学生

～知・心・体を育てる～

## 【重点目標】

KYBやノーメディアの取組を通して、自らの健康課題に気付き、改善できる生徒を育てる。

## 【養護教諭の

児童・生徒への願い】

・自己の健康に関心を持ち、生涯を心身共に健康で過ごすための実践力を持った生徒。

## 【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	テレビ・ゲーム等メディア視聴時間を減らしたり、生活習慣を見直したりして、生活リズムを整え、生活習慣を改善することができる。	KYBカードやノーメディア取組カードから評価 (生徒の取組評価4段階：自己評価) A：評価 3.5以上 (80%以上) B：評価 2.5以上 (60%以上) C：評価 2.4以下 (59%以下)		
教育活動	生活習慣アンケートを実施し実態把握をする。 KYBカードによる目標に向けての取組と月毎の生活習慣の振り返りを行う。 ノーメディアの取組を小・中連携し、学期に1回実施する。	KYBカードやノーメディア取組カードから評価 (生徒の取組評価4段階：自己評価) A：評価 3.5以上 (80%以上) B：評価 2.5以上 (60%以上) C：評価 2.4以下 (59%以下)		
運営活動	学校保健委員会を活用し、学校・家庭・地域と連携を図る。 地域PTAで生活習慣アンケートの結果を説明し、小中合同のノーメディアの取組について協力を依頼する。	学校保健委員会参加者の様子から～記述から～(上記4段階評価) A：健康課題を把握し改善のための実践の手立てが分かる。 B：健康課題を把握し改善しようとする意欲がある。 C：健康課題のみを把握することができる。		

## 【考察】